

さいたま市立大宮北中学校

# 学校だより 2月号

令和5年2月1日(水)

048(641)1214

048(641)6680(さわか相談室)

<http://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>



学校教育目標

『人間性豊かな  
実践力のある生徒』  
たしかな学力  
ゆたかな心情  
たくましい身体

## 探究的な学び「STEAMS TIME」の取組

ジャクサ  
～JAXA宇宙教育センターとの連携から～

校長 富田 英雄

暦の上では立春ですが、厳しい寒さが続いています。先月下旬は、日本付近に記録的な寒波が押し寄せ、埼玉県でも最低気温が連日のように氷点下を記録しています。春が待ち遠しく感じます。

さて、3年生の私立高校の入学試験が始まりました。今年度も感染症対策を行いながら試験に臨んでいます。今月22日(水)、24日(金)には、埼玉県公立高等学校の入学者選抜があります。これまでも授業をはじめ学校生活に真剣に取り組んでくれた3年生です。自分を信じて、試験に臨んでほしいです。また、2年生は、6日(月)から福島県南会津町で2泊3日の宿泊学習「少年自然の教室」があり、1年生は、28日(火)に川越校外学習が予定されています。今後の感染状況が気になるところですが、お互いが協力し合い、有意義で楽しい校外行事にしてほしいと思います。

さて、今年度から全ての市立小・中学校で、探究的な学びの充実を図るため、各教科等ではぐくんだ資質・能力を活用しながら課題を解決する授業プログラム「STEAMS TIME」を実施しています。具体的には、総合的な学習の時間の中で、プログラミングの内容3時間と探究学習が6時間です。先日、3年生が、探究学習のクラス内発表会を行いました。テーマは「月や火星に快適な家を建てよう」です。学習を進めるにあたり、JAXA宇宙教育センターの学校教育支援事業「授業連携」が認められたため、JAXA宇宙教育センターの職員から直接、オンライン等で指導を受けながら授業を行いました。生徒は、JAXAが提供する映像を見て、月や火星、宇宙への興味をもち、インターネット等で月や火星の環境を調査しました。その上で、班ごとに空き箱などの身近なものを使って月や火星で生活する家の模型を作ったり、タブレット(ものづくりゲームソフト)を使って家の中の細やかなところまで表現した見取り図を作ったりしました。「エネルギー源として風力発電は有効ではないか」、「宇宙放射線を防ぐため、建物は地下に作ろう」、「生活で出る排泄物、生ごみの処理装置が必要だ」など、様々なアイデアが出てきます。そして、生徒の作品を宇宙教育センターの職員に見てもらい、「風力発電はいいアイデアだが、砂嵐にどう対応する?」、「外観見取り図で屋外が青空になっているが、月に青空はありません」など、具体的なアドバイスや指摘をもらいました。生徒は指摘された内容を踏まえ、作品の修正を行い発表会に臨みました。学習後、生徒から、「月や火星に住むことを今まで考えたことがなかったが、みんなの意見を交えながら作るのが楽しかった」、「他の班は「宇宙」という条件をしっかりと考えて建物をつくっていた。参考になった」、「JAXAの方のアドバイスがとてもくわしく書いてあり、うれしかった」等の様々な感想が聞かれました。

今回の取組では、生徒の発想がとても豊かで、JAXA宇宙教育センターの職員も驚ろくほどでした。宇宙教育センターのモットーは「宇宙が子どもたちの心に火をつける」だそうですが、宇宙を題材に、まさに「心に火がついた」ように探究心を駆使して、自分たちで考えながら活動してくれました。今後もこのような探究学習を継続的に行い、生徒の創造力、思考力、表現力などを育てていきたいと思っています。